

学び合う力を育てるために ～算数科を中心に～

七尾市立高階小学校

1 事例の概要

本校は全校 50 名の小規模校であり、複式学級が 2 つある。児童は、全体的に落ち着きをもって真面目に取り組む。教師の目が行き届きやすく授業におけるヒントカードや個に応じた指導が十分できる環境であり恵まれている。しかし、主体的に学習する姿勢や、粘り強く思考し判断することに弱さが見られる点がある。特に、自分なりに考えたことを表現することに慣れていない。

そこで、各自が捉えた考えをもとに、友達の考えと比較検討をしていく学び合いの授業づくりを目指し、学校研究に取り組んだ。その際、研究推進の柱として「授業研究部」と「複式研究部」の二つの部会を設け、以下の取組を中心に実践研究を行うことにした。

「授業研究部」では、「学び合う力」を育てるための授業について考え、実践化を目指した。具体的には、学習意欲がわく問題提示のあり方、学び合いでの教師の支援のあり方、算数的表現によるコミュニケーションを育てる指導、評価と個に応じた指導などを研究していった。

一方、「複式研究部」では、複式授業のあり方について考え、実践化を目指した。具体的には、リーダーの育成、ペア・グループ学習による対話、直接指導と間接指導での支援のあり方、ノート作りによる思考整理のあり方などを研究していった。

A-1 学校研究

2 実践内容

- ・「学び合う力」を育てるために大切なことを共有化する。(教師によるイメージマップ作り)
- ・基本的な学習過程を作る。(複式指導にも適用できるように)
- ・「学び合う力」とは何か、力を育てるための手立てを明確にする。
- ・「PISA 型読解力」向上のためのプロセスを取り入れた授業構想を作る。
- ・授業における「個の学びの変容」は、どこに見られたのかを観察する。
- ・「高階っ子 学習の約束」を作る。
- ・模擬授業による検討会を行う。

B-1 イメージマップ

B-2 基本的な学習過程

B-3 学び合う力と手立て

B-4 指導案における PISA 型読解力の視点

B-5 個の観察シート

B-6 高階っ子 学習の約束

B-7 模擬授業のねらい

3 指導の実際

2年 かけ算（1）「かけ算の問題を作ろう」

指導案に明記する視点

<学び合う力を育てるための手だて>

- ・ホワイトボードを利用して発表することにより、考えがよくわかり、比べやすいようにする。
(友達の考えを読み取る力)
- ・ゆさぶり発問により、相談する機会をもつ。(集団で学ぶ力)

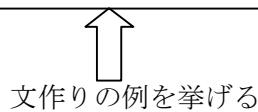
<この授業によるPISA型読解力>

- ・絵を見て、乗法を用いる場面をとらえることができる。(情報の取り出し)
- ・絵から情報を取り出し、問題文を作ることができる。(熟考)

<個の変容する姿>

Aグループ 2名

同じ数ずつの集まりを見
つけることができる。

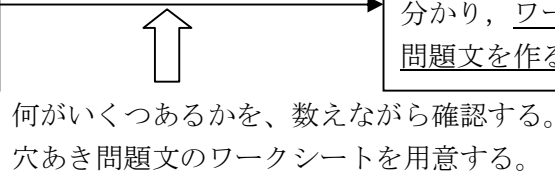


文作りの例を挙げる

「同じ数ずつ」と「いくつ分」が分
かり、問題文を作ることができる。

Bグループ 3名

同じ数ずつの集まりを見
つけることができる。



「同じ数ずつ」と「いくつ分」が
分かり、ワークシートを使って、
問題文を作ることができる。

C-1 指導案2年

C-2 学習の様子(2年)

C-3 個の観察シート(2年)

4 成果と課題

(1) 成果

- ・『課題をつかむー考えをもつー考えを広めるーふりかえりをする』の基本過程をはっきりとさせることにより、児童に主体的な学習への取組む姿が見られるようになってきた。
- ・その基本過程は、複式授業における『直接ー間接』時における学習のステップにも4つの基本過程が適用させていくことができた。
- ・また、同時間接授業での子どもたちの学習の見通しがもてるようになった。
- ・全職員による構想図作成に向けての作業を幾度も重ねることにより、学校研究に対する共通意識の高まりと共有化が図られた。
- ・個の学ぶ姿を観察することにより、その子なりの学びの成立には、授業者のどのような働きかけが有効だったのかを協議会での話題にあげることができた。
- ・PISA型読解力を育てる意識を授業者が明確に持つことにより、児童の一人ひとりが自分なりの考えを持ちながら、学び合いに入ることができた。

(2) 課題

- ・学び合う姿を育てるために、導入時における強い課題意識の持たせ方をさらに工夫改善する。
- ・複式における直接指導、間接指導と発達段階に応じた学び合いのあり方を関連づけた指導過程を工夫する。
- ・思考力と表現力を高めるための評価方法や指導法を研究する。
- ・算数科を中心にPISA型読解力をつける授業力向上に努める。